

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ 山口東京理科大学の将来像

工学部の定員は1学年200名ですが、平成28年度の公立化を控えているからでしょうか、今年の出願者数は、定員の5倍を超えたそうです。薬学部（1学年の定員120名の予定）が新設されれば、両学部の出願者はもっと増えるといわれています。専門分野の質の高い卒業生が増えれば、山口県下での就職率も高まります。彼らはやがて地元で家庭を持つでしょうし、それは間違いなく定住人口の増加につながり、地方創生に寄与できるものと確信しています。

学校法人東京理科大学の前身「東京物理学校」は、入学はしやすいものの、なかなか卒業できなかったそうです。それだけに、質の高い卒業生ばかりが誕生し、彼らが長い間、日本の産業界の一翼をリードしてきました。こうした過去の栄光の歴史に想いを致すとき、公立化する山口東京理科大学の就職率を高めるには、この「東京物理学校」の歴史と教訓を思い起こし、大学在学中の学生の修学と、それを支援する学内の教育研究の充実が課題になってくるように思われます。

4月からは、公立化する平成28年度以降をにらんで、山口東京理科大学の更なる前進に向けての協議を、大学側と始める予定です。

■ ネーミングライツ

今、本市では、市の施設に企業名等の広告を出して広告料をいただく、いわゆる「ネーミン

グライツ」の導入を検討しています。「広報さんようおのだ」にも有料で広告を載せていますが、これを本市所有の施設全部に広げることはいできないか、という問題提起です。事態は、実現可能な方向で動いています。

最近、スキージャンプやカーリングのワールドカップなどをテレビで見ていると、どの選手の腕にも企業名等の広告らしきものが何枚も張られているのに気が付きます。これも、ネーミングライツかなと勝手に想像していますが、どうなのでしょう。お隣りの市長車のボディにはさわやかな絵柄がついています。あるいはこれも…。

本市の市長車のボディに広告を出してくださる市内の企業等はいらっしゃいませんか。毎週、市内をくまなく一巡していますから、“市民に親しまれる愛称”になること請け合いだと思うのですが…。

